

2011 年度 学生作品展報告書

【概要】

2011 年度の学生作品展は、3 回生中心の作品展示であった。
学生作品展で統一のテーマを決めず、各学科で計画し運営をおこなった。

開催期間： 2011 年 9 月 13 日(火)～19 日(月・祝)

13 日から展示した学科は、美術工芸学科と、空間演出デザイン学科。他学科は 17 日～19 日に開催
予算： 学生一人につき 2000 円 (学科/コースにて使用予算の分配は任された)

参加学科:10 学科

美術工芸学科
環境デザイン学科
空間演出デザイン学科
情報デザイン学科
キャラクターデザイン学科
芸術表現・アートプロデュース学科
歴史遺産学科
こども芸術学
舞台芸術学科
映画学科

【組織】

学科展の統括、各学科から代表者 1 名(学科代表)の計 11 人で構成。

学科の状況によってコースの代表者も参加する場合もあった。

定例のミーティングにて、統括は学科代表へ連絡をし、学科代表は必要な情報を提出する形であった。
また、連絡を学科代表は各学科、コースへ連絡し展示の企画や運営を行った。

以下、各学科の報告

美術工芸学科

開催日時： 9月15日(木)～19日(月)10時～18時

開催場所： nc棟、顕心館 23教室、未来館 104教室

テーマ： Thinking Process

説明： 成果物だけではなく、制作プロセスを見せる

洋画コース

会期： 2011年9月15日(木)～19日(月・祝)10:00～19:00

19日(月・祝)14:00～ 公開合評会

場所： NC棟 306・308教室

<来場者数>

15日(木)	5名		
16日(金)	13名		
17日(土)	15名		
18日(日)	90名		
19日(月・祝)	37名	合計	160名

<問題点・改善点等>

(準備・設営に関して)

- ・ 企画を出すのが遅く動き出しが遅れた。外部へのアプローチがあまりできなかった。
- ・ 展示準備や片づけに人が集まらない。決まったメンバーしか参加しない。
- ・ フライヤー、企画の件などメーリングリストでのやり取りがほとんどで届いていないケースもあった。(連絡先の名簿を作成し連絡する方が有効。)

(展示に関して)

- ・ 誰の作品がどこにあるのか分かりづらい。
- ・ キャプションが小さく見づらい。
- ・ 各ブースの展示だったので全体感がなかった。片づけすぎ、殺風景な印象。
- ・ 受付での対応に統一感が必要。
- ・ 受付に人がいない時があった。
- ・ フライヤーなどの配置に工夫が必要。
- ・ ブース展示ではない方が内容の偏りが少なくなるのでは。

<スケジュール>

6月

- 上旬 ・ 事前アンケート...制作スペース、今後の作品について 学生作品展テーマについてどう考えるか
- 下旬 ・ 出品者リスト作成のための調査(名前、出身地、経歴)
- ・ 企画書の作成
- ・ 制作ブース決定、パーティション設置

7月

- 上旬 ・フライヤー、合評会の有無などのミーティング
- 中旬 ・グループ、役割決め
・合評会のゲストアンケート
- 下旬 ・各自パーテーション塗装
・前期合評期間（オープスタジオ）
・マケット（模型）制作

8月

- 2日 マケット（模型）完成
- 7日 公開合評のゲスト決定 アポ取り
- 中旬 フライヤーデザインの確定
- 20日 フライヤーに載せるテキスト、写真の締め切り
作品展示場所確定
- 26日 フライヤー入稿

9月

- 9日 教室掃除、私物・共有物の撤去（洋画1回生教室へ） フライヤー完成 折り作業
- 10日 キャプション情報締め切り
- 14日 作品搬入、各ブース展示作業、受付設置、キャプション印刷・設置
- 15日～学生作品展開始
- 19日 公開合評
- 20日 搬出、撤去していた私物と共有物の片づけ

<各グループ詳細>

広報班（9名）

- ・フライヤー、キャプション用のテキストや作品情報の収集、編集
- ・フライヤー、キャプション、ポスターのデザイン
- ・ブログの更新（ブログ委員）

現場班（7名）

- ・マケット（模型）制作
- ・場内構成、作品配置を考える
- ・パーテーション塗装の指示

企画班（6名）

- ・公開合評会などのイベントを企画
- ・ゲストのアポ取り
- ・公開合評会の進行

記録班（4名）

- ・ミーティングの議事録をとり、まとめる
- ・記録用の写真撮影
- ・キャプション用の作品情報の収集（広報班と連携）

< 公開合評会 >

- ・日時：19日（月・祝）14：00～16：00
- ・場所：NC棟306・308教室
- ・ゲスト：海野厚敬、奥田輝芳、川村悦子、木村克朗、児玉靖枝（五十音順ノ敬称略）

< 展示後のアンケート >

洋画コース3回生でアンケートをとった結果、「1回生で担当だった先生方に合評していただきたい」という声が多く、現在の授業を担当している児玉先生にも加わっていただき、計5名の先生方に合評していただきました。

< 合評風景 >



< 展示風景 >



日本画コース

未提出

立体造形コース

作品テーマ「宇宙」

展示紹介：様々な素材、それに伴う技法、技術、そして方法までも取り入れて制作しなければならないのが立体造形です。そこから生まれる作品はまさに無限の広がりを見せてくれます。

今回展示する3年生の作品テーマは「宇宙」です。Space、Cosmos、内なる宇宙、外なる宇宙へとその解釈、イメージの想起はそれぞれに無限でしょう。その無限のちりばめの中から新たな表現が生まれます。

会場：F103、F104

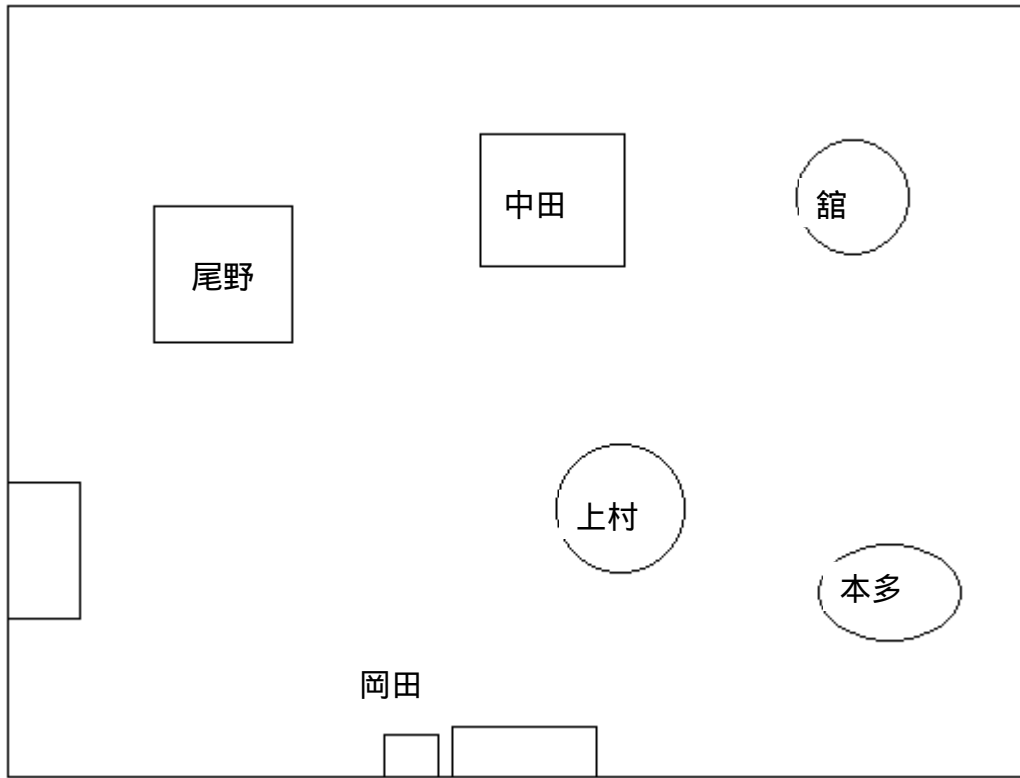
展示について:作品の位置取り（設置部屋含む）は製作者に任せています。最終、展示作業が終了したあとに手直しという形で何点か移動させました。製作途中の提示について研究室にあらかじめ提出した物、もしくは個人で新たに制作した製作途中を示すもの、イメージ画等を額装し、F103の教室北側壁に展示しています。

*F103

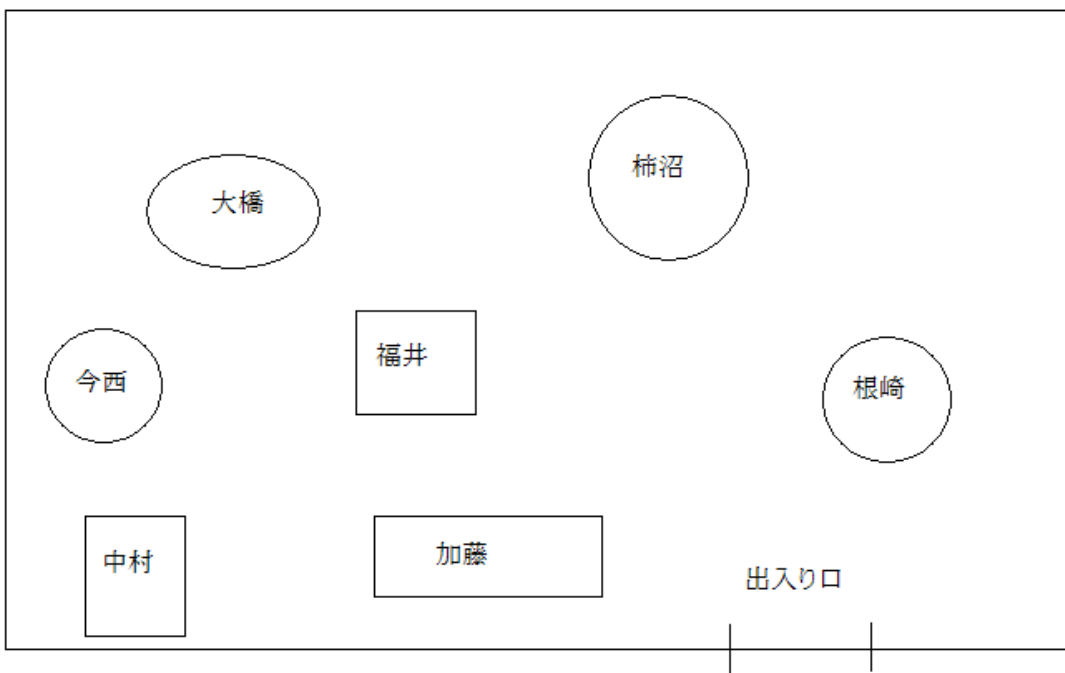


証明はもとの蛍光灯を使用せず後付のスポットを展示期間のみ使用しています。

* 1 0 3



* 1 0 4





良かったこと

- ・ お向かいに陶芸コースの展示があったためお客さんを共有できた。
- ・ 近くで農村サークルが食堂を出していたので、そこにきたお客さんが存在に気付いてくれた。

反省点

- ・ 陶芸コースから流れてくるお客さんが多かった。向かい合って出入り口が同じところにある。(でもホワイトボードの効果か順番はいつも立体が二番目'笑)
- ・ 展示していた教室がハリボテ。もともと2~3、4回生の教室として使用していた場所の荷物を石彫室のスロープに片付け、パーティションを立てかけて目隠ししただけの部屋のため、雑然とした壁が証明などで作り出そうとしている雰囲気邪魔している。
- ・ 部屋が狭いため二部屋に分かれてしまった。

染織テキスタイルコース

使用教室：NC103,NC107

展示内容：NC103 教室では個々が授業時間に制作したリピート図案を壁面、ポートフォリオを机上に展示。制作過程を含むポートフォリオとPC演習で作成したリピート図案で構成。

NC107 教室では個々が選択している8つのプロダクト演習のテーマごとの成果物の展示。

各ゼミの展示紹介

<伊勢木綿の四角衣>

SOU・SOU 主宰：若林剛之

シルクスクリーンで染めた二枚の布を縫製したシンプルな「四角衣」を展示。

<モーネを学ぶ・モーネで学ぶ>

モーネ工房 主宰：井上由季子

授業開始が後期のためコンセプトボードのみ展示。

<染の楽しさを取り戻す>

風工房 主宰：齋藤洋

その場で考えた色、柄を自由に布へ描いた作品を展示。

<草木染めで食べていく方法>

手染メ屋 主宰：青木正明

草木染めを用い個々の好きなものを商品として作り展示。

<自分プレゼン・インターンシップ>

CEMENT PRODUCE DESIGN 主宰：金谷勉

授業開始が後期のためコンセプトボードのみ展示。

<能勢電制服の作り直し>

丹羽裕美子

能勢電の制服をリメイクし個々の思う販売出来る形で展示。

<浴衣の新作制作と展覧会>

八幡はるみ

成果物はNC103に個々に展示し、展覧会の様子は写真で展示。NC108では2年時課題で制作した浴衣を展示。

<プロダクトウィーブ>

大高亨

授業開始が後期のためコンセプトボードのみ展示。

設営：プロダクト演習ごとのリーダーと担当教員との打ち合わせにより決定。パーテーションで壁面を覆い、ホワイトキューブ式での展示を行った。

2年生にも協力を仰ぎ NC 入り口からの導線に矢印看板を設置。

撤収：プロダクト演習ごとに作品を片付け、主に自分自身の作品を担当した。

反省：夏休み期間であったため、帰省中の学生も多く、全体で集まることができる機会が少なく、展示や会場作りについての

話し合いの場がすくなかった。

外部に向けての広報（DMの作成・配布など）ができなかった。

陶芸コース

・設営について

陶芸コース二回生が使用している作業スペースを掃除し、展示用に並び替え新たに照明を設置。

学生1人に作業台1台を展示スペースとして与えそれぞれが思い思いに自分を表現したパネルと作品を展示。また陶器、オブジェ制作に用いた道具類も合わせて展示。

入口に受付を設け訪名帳に記名をしてもらい先の展覧会のDMを配布。

・会期中について

だいぶ入りこんだ場所にあるため客があまり入らないのではないかと予想していたがたくさんの方に展示を見てもらうことができた。

・撤収に関して

コース内の学生、副手が協力してスムーズな撤収、復元ができた。

版画ゼミ

学生作品展の報告

版画コースは他のコースに比べて人数が少なく、準備するものも少なかったので設営は技官さんが準備してくれました。

版画コースまでの誘導テープなどは係が台風15号の影響で実家が浸水しその関係で連絡も上手くとれなかったため出来ずに会期をむかえてしまったので、会期中はほぼ人はこなかったです。版画3回生の中で、その期間に学校に来れる人が一人だったので役が集中してしまうのは可愛そうなので会期中の受付なども決めてませんでした。

次回に向けては、版画コースの少ない人数の中で他コースと同じように代議員や卒展委員など決めてやっていったり、作品展の準備などをするのは厳しいと思いました。

総合造形ゼミ

未提出

空間演出デザイン学科

開催日時： 9月18日(日)、19日(月) 両日10時～18時

開催場所： 興心館21教室、至誠館ピロティ

内容： 3回生の授業課題の展示(興心館21教室)

1回生のフィールドワーク作品展示、休憩スペース、ワークショップ(至誠館ピロティ)



興心館21教室での展示風景



至誠館ピロティでの様子

感想：去年と比べて作品数が多かったのもあるが、見ごたえのある展示会場となった。興心館と至誠館の二箇所で行う

ことにより、お互いの宣伝もでき、また学内をより回ってもらえたと思う。

ワークショップに参加した人から、「展示も見てきました！」と声をかけられることがあった。

トートバックを作るワークショップは、連日大盛況で、用意していた100個のトートバックは全てなくなった。

椅子は組み立て式なのでばらして保管し、ハンガーは捨てることなく10本100円で学科内で販売。

「ゴミを出さない！」という目的も達成した

芸術表現・アートプロデュース学科

開催期間： 9月17日(土)プレオープン

18日(日)、19日(月)

コースコンセプト： 未来へのステップアップ

搬入出期間： 搬入：16日 搬出：20日

展示会場： 人間館402教室

出展者： 岩岡 舞、池原久美子、内田高平、岡村翔平、加藤ゆうと、清田恵亮、香田沙紀、清水真理、住田未来、

高橋真紀、田辺容子、玉岡光世、中澤いずみ、中西伊織

(全 15 名 / 共にクリエイティブライティング(CW)コース 3 回生)

見所： 小説や詩、編集物など CW コースの学生がこれまでの大学生活のなかで学んできたことや、現在取り組んでいる活動の内容を、それぞれ一冊の本として展示。

表紙イメージ画像



反省点：

良かった点

- ・装丁や製本方法などをそれぞれで行なったことにより、昨年よりも一人一人の作品に個性が出た。
- ・思っていたより沢山お客さんが来て、本を手にとって読んでくれた。

悪かった点 来年に向けての改善方法

- ・プレオープンの来客数が少なかった
もっと積極的に学科の広報をし、他学科と関わって行き、大学内での学科の認知度を上げる
- ・人数をカウントしていなかった
せっかくお客さんが沢山来てもこれでは実感が少ないので来年はシフト業務の際にきちんとカウントする
- ・作品制作が間に合わず展示できない人がいた
そもそも3回生の士気が低い。スランプだろうと切は守るようにする。
- ・やると思っていたのにイベントができなかった
イベントチームを学科内で作り、その人たちが先導して企画、実行、反省までをする

歴史遺産学科

文化財保存修復コース

開催期間： 2011 年 9 月 18 日(日) ~ 19 日(月)

展示会場：

準備期間について

- ・歴史遺産学科には生徒が事前に制作した展示物が少ないので、各ゼミ(歴史遺産学科はゼミ単位で展示

を行った)この時期が一番の修羅場だった。

夏季休暇中で人が集まらず、作業する人に偏りが出てしまっていた。

- ・オープンキャンパスをやるか否かの情報が曖昧だったため、混乱した。

設営について

- ・階段教室ということで、パーティションなしの方向で進めていった。(今更ですが、階段教室の形に添うパーティションってあったのでしょうか?)
- ・机の収納スペースに悩み、結果教室の後方に寄せた。

会期中に関して

- ・あらかじめ予想はしていましたが段差に赤いテープを貼ったり、注意書きをしつこいほど貼ったりしましたが、段差に躓く人が結構いました。
- ・歴史遺産にはオープンキャンパス目当ての高校生と、年配の来場者が多く来られていました。他学科の教授(pd など)も来られていました。

撤収について

- ・主にパネル展示だったので、とくに問題ありませんでした。

改善点や次回の希望

- ・去年よりもいい立地でやらせていただいたので、やりがいがありました。
- ・来年度もパネル展示が多くなると思うので、パーティションの使える教室を使わせていただけたら嬉しいです!

舞台芸術学科

開催期間: 2011年9月18日(日)~19日(月)

展示 10:00~20:00

ダンスパフォーマンス 13:30 / 16:00

ゲリラパフォーマンス 11:00 / 15:00 / 18:00(19日のみ)

展示会場: 京都芸術劇場 studio21、大学内各所

テーマ: 爆発~ライブの力~

コンセプト: 舞台芸術の最大の魅力は、ライブであること、生であること。その時その場所でしか見ることができず、
直接肌

で感じることのできる芸術である。舞台の持つ「ライブの力」を、触れる展示や体験型ワークショップ、ダン
スパ

フォーマンスによって多くの人に感じてもらいたい。また、これまで取り組んできた作品や、現在作ってい
る作

品を紹介することで、舞台芸術学科への興味・関心をより深めてもらうことを目的とする。

展示内容:

studio21 内作品展示

普段の授業や、授業発表公演などで使用する studio21 を使って、3 回生がこれまでに取り組んだ作品に関連した展示を行った。完成した作品だけでなく、作品制作の過程やスタッフワークにも焦点を当てたいということもあり、映像・照明・音響を操作しているところも見ることができるようにした。

・映像上映

スタジオ後方に大きなスクリーンを吊り、現 3 回生が 2010 年～2011 年 7 月までに行った授業発表公演 6 作品を、ダイジェ

ストで映していた。またそれとは別に、作品の全編を見たい人のためのブースもつくり、自由に作品を選んで鑑賞できるよう

にした。

・衣装展示

過去作品の中から 3 作品を選び、実際の衣装と、その衣装を着ている舞台写真を展示した。

・台本、作品アルバム展示

公演した作品の台本や、戯曲の授業で学生が作成した台本、演技の授業で使用した台本を展示した。稽古の様子やその時の気持ちが少しでも伝わるようにと、学生の書き込みなどは残したままにした。

これまで取り組んだ 6 作品の、舞台写真やパンフレットを公演ごとにまとめたアルバムを作った。写真のほかにも、そのシーンの説明や台詞、実際に関わった学生のコメントなども載せた。

これら 2 つは自由に手にとって読めるようにし、熱心に見てくださるお客様も多かった。

・小道具、模型

昨年後期に取り組んだ公演で使用した小道具の展示。実物だけでなく、デザイン画や設計図も展示した。

昨年の授業発表公演と、今回の学生作品展のスタジオ模型の展示。

・仮面の展示

授業(専門英語)で作成した仮面を展示した。展示場所が入り口近くだったことと、見た目がカラフルで派手だったからか、来場したお客様はまずこの展示を見る人が多かった。

触ったり着けたりできるものもあり、実際に仮面を着けて写真を撮っているお客様もいた。

・雪かご体験

舞台上で雪などを降らせる装置を、実際に触って雪を降らせてもらう体験型展示。通常は見えないように設置するが、今回は装置の仕組みも見てもらおうと少し低い位置に設置した。小さい子どもには特に好評だった。

・照明ワークショップ(両日 17:00～のみ)

実際に舞台上で使用する照明機材を使ってのワークショップ。照明機材の仕組みや、照明卓の説明をしたり、ワークショップに参加した人に照明の色を変えてもらったり模様を作ってもらったりした。

・バラシ見学(19 日 18:00～のみ)

バラシ(舞台の解体作業)を見学できるようにした。危険な作業のため調整室に案内し、そこで作業の説明をしながら見学してもらった。普通は、舞台に関わる人以外は見ることがない作業だが、舞台の裏側も見せたら面白いのではと思い企画した。

ダンスパフォーマンス

3 回生伊藤キムクラスのメンバーによるダンスパフォーマンス。

このクラスは 2011 年 7 月に松麟館屋上でダンス公演を行い、多くの方に見ていただいた。そこでも扱った「女体」をテーマに、今回新たに作品をつくった。スタジオ全体を使い、展示物に絡んだり、映像を使ったりと、普段とは違う展示空間を活かした作品だった。また、今年の夏期集中授業でつくったダンスを告知なしでゲリラ的にスタジオ内で行ったり、院生のダンスパフォーマンスも行った。

関連企画 ゲリラパフォーマンス

スタジオ内のパフォーマンスと同じメンバーが、大学内の各所でゲリラパフォーマンスを行った。

基本的なルートは、オーブ オーブ 2F 人間館 1F 廊下 人間館ピロティ 逆順で戻る

導線の確保や他の企画との兼ね合いなど、難しい面もあったが、パフォーマンスを見ていただくのはもちろん、宣伝としても効果があったと思うし、たくさんの人に楽しんでもらえたと思う。

課題としては、他学科との連絡を事前に密にとること、他の催しの時間を把握しておくこと。

スタジオ壁面装飾

外から見て何をしているのかわかりづらいということで、スタジオ外の壁面の装飾も行った。

作品展のテーマである「爆発」をイメージした赤い布に、「舞台とは？」という質問の答えを書いて壁面に垂らした。

まとめ：

私たちにとって「展示」という形式は初めてのことで、ナマモノである舞台をどう作品として展示するかを考えるのに苦労した。

ただ単に映像を流したり、写真を展示するだけでは、それは「記録」に過ぎず、そこには公演をつくる過程での生の声が必要であったし、見に来たお客様に手で触れて感じてもらう必要があった。

今回の展示では「ライブ」ということを重視して、触ったり体験したりできるものを多く用意し、また、場内のスタッフが自分の関わった公演の説明をする様子も見られた。ダンスパフォーマンスは、舞台の本領発揮といつか、「ライブの力」を感じてもらうことができた。

展示で、今までどのような作品をつくってきたか、そこでどんなことが行われていたかを知ってもらい、パフォーマンスでは生で舞台を見ることの楽しさを感じてもらう。その両方を知ってもらうことで、舞台芸術の面白さ、また舞台芸術学科について、関心をもってもらえる機会になったと思う。

キャラクターデザイン学科

開催期間 10月17日～10月19日

タイトル 展示：きゃらでドットこむ

物販：きゃらで . shop

展示テーマ 「生きる力」

場所 展示：ギャルリオーブ二階

物販：ギャルリオーブ前廊下

展示ラインナップ

- ・静止画（最小ハガキサイズ～最大A1サイズ）パネル展示
- ・動画作品
- ・立体作品

物販ラインナップ

- ・ポストカード（100円）
- ・ステッカー（50円）
- ・缶バッジ（100円）
- ・マグネット（50円）

■物販売上

52,150円

■概要、感想

テーマ「生きる力」を元に、学生ひとりひとりが、キャラクターデザイン学科を構成する力なのだ問いう意味を含め、「ドット」というコンセプトで展示空間を作りました。

今回はじめて物販を行いました。人通りが多かったこともあり、とても賑わっていました。

展示場所であるギャルリオーブ二階の工事の関係などで、作業に入ったのが8月後半と遅いスタートになってしまいましたが、来年はその反省を活かし、余裕をもって制作出来ればと思います。

映画学科

映画学科は他の学科と違い前もってつくった作品を飾るという形式がとれない為、映画を上映するという形式をとることにした。また、本来学科展というものは、3回生の作品を3回生により展示するものであるが、映画学科の場合3回生の作品として完成されているものが前期の時点ではないに等しい。その為現在の4回生が3回生時に製作した作品と、3回生が2回生時に製作した作品を上映することにした。どちらも3回生の作品であると考えたからだ。

映画学科全体に学科展で上映する作品の募集をかけたが、私達の宣伝不足の為もありほとんど集まらなかった。代議員を中心とした3回生の一部で学科展にふさわしいであろう作品を選んだ。学生作品を上映することだけでは盛り上がりがないと考え、イベントを1日に1度入れることにした。

上映スケジュールは以下の通りである。

環境デザイン学科

代議員 建築デザインコース 海谷香里

インテリアデザイン 佐藤杏里

ランドスケープデザインコース 伊佐治美穂

学生作品展有志 星一史 進藤友弥 林雅人 佐藤昂大 楠瀬将之 中川翔一 島田亮 野中宏輝

9月11日(日)

12:00	オオオオオ (約10分)	MC	坪坪坪坪
	『 』 (25分)	監監	河河河
	『 限限』 (10分)	監監	土土土
	『 』 (6分)	監監	岩岩岩
12:50	トオト 河河河、土土土、岩岩岩(約15分)	MC	坪坪坪坪
13:05	終終終終		
14:00	オオオオオ (約10分)	MC	坪坪坪坪
	伊伊ささ学学学学の作	監監	伊伊伊伊
	『 NO』 『 MOVEMENT3』		
	『 SPACY』 『 BOX』 『 THUNDER』 (35分)		
14:35	トオト 伊伊伊伊(約20分)	MC	坪坪坪坪
14:55	終終終終		
16:00	オオオオオ (約10分)	MC	坪坪坪坪
	『 姉ささ』 (15分)	監監	河河河河
	『 ララトラオラ』 (12分)	監監	伊藤藤藤
16:40	トオト 河河河河、伊藤藤藤(約15分)	MC	坪坪坪坪
16:55	終終終終		

学生作品展環境デザイン学科担当 荒川朱美先生

環境デザイン学科のテーマ

「HOME COMING DAY」

展示作品：3回生前期後半設計課題「比山ガーデンプレイス」

学生作品展当日までの流れ

6月～7月 学生作品展の展示内容の打ち合わせ

展示場所の視察

- ・展示会場の現状把握
- ・展示会場の寸法を計測
- ・おおまかに空間の話し合い

再度、展示内容、展示の計画などの打ち合わせ

展示会場の視察

視察し、気になった点や活用できそうなことを話し合う

- ・空間ノイズの処理はどうか？
- ・ダクトがどこにあったか
- ・所有物は誰のもで、借りれるのか、撤去できるのか
- ・蛍光灯の配置場所

・プラグの場所と個数 など

9月16日

搬入2日目

10:00 NA311集合

作業内容の説明

展示空間の作業班 ・展示会場の設営
・ライティング
最終確認

廊下の展示板設置作業班 ・展示板の配置
・ライティング
最終確認
・展示模型の搬入
・展示模型の設営

グラフィックチーム ・パンフレット制作
最終確認

20日

搬出

10:00 NA311集合

(天候が悪く、雨が降っていたため)

松麟館の各コースの教室に環境デザイン

袋に模型、展示台をいれる

学科事務室から借りた長机を配置しておく

展示板のカットシートをはがす

模型、展示台 各コースの教室

展示板 ビニールシートをかぶせて至誠館一階ピロティ

展示会場の普及作業

会場の掃除

NA301に移動していた各教室の備品などの移動

NA301の普及作業

反省点

・搬出前に展示会場の現状を写真に撮っておく

普及作業の時に大変役に立ちます

・情報の共有をする

運営の中できちんと情報を共有する

展示に参加する人すべてに情報を随時公開する

学科展担当以外の先生方にも随時情報を公開し、意見を伺う

できるだけ、直接会って情報共有を行う(クリアな情報を与える)

・仕事を分配する

みんなに関わってもらう機会を与え、参加を促す

・展示中のシフトは遅くとも一か月前に決定しておく

今回は一週間前に募集をかけました

当然、人数は思うようには集まりませんでした

3回生の夏休みは集中授業、インターン、OB・OG訪問などで忙しいので、確実に早めに決定しておくべきです

・搬入、搬出の段どりをしておくこと

スムーズに作業するには必要

学生作品展当日までの流れ 続き

8月20日 学生作品展運営チームの結成（チームは有志と3回生代議員）

展示空間のイメージ・展示プランの計画を考える

23日 M T G

・展示空間のイメージの検討

・展示プランの検討 など

24日 M T G

・アイデア出し これらと並行して展示会場を使用してのスタディを行った

25日 M T G

・アイデア出し

・アイデアの検討

26日 M T G

・アイデア出し

・アイデアの検討

9月4日 展示空間マスタープランの決定

・カッティングシート（CS）の使用

・図面、コンセプトをまとめた冊子をつくる

・フロアマップの作成

専門のグラフィックチームを結成

・環境デザイン学科3回生全員参加の連絡網の作成

準備期間中の作業内容

準備期

グラフィックチーム担当

・CSを使用した壁面デザイン

・パンフレットデザイン、作成

・フロアマップデザイン、作成

有志、代議員担当

・ライトの個数を確認

確認先：教学事務室、環境デザイン学科事務室

- ・展示会場廊下に立てかける板（製図室の机の展板を使用）の滑り止め加工
- ・作品展参加者全員分の図面の撮影、加工
- ・作品展参加者全員分のコンセプト文の回収

15日 搬入

- 10：00 NA311集合
- 作業の流れの説明
- 展示室内のイス、机、備品の等の運び出し NA301
- 松麟館各コースの部屋から展示台（机のあし）、展示板(机の展板)の運び出し
- 展示会場の掃除、作業スペースの確保
- 展板にカットニングシートを貼る作業
- 12：00 休憩
- 13：00 作業の再開
- 展示空間の作業班
- ・展示台の配置場所マスキング
 - ・展示台の仮置き
 - ・ライティングの仮確認
 - ・アクリルの棒の準備
- 廊下の展示板設置作業班
- ・CS の出力
 - ・展示板に CS を貼りつける
 - ・廊下に展示板配置場所マスキング
 - ・展示板の枚数確認
 - ・廊下のライティング
- グラフィックチーム
- ・CS の出力
 - ・パンフレットの出力
 - ・フロアマップ CS の出力
- 18：00 15日の作業終了
- 一部残り、CS張り付け作業を行う
- 20：00 完全撤収

情報デザイン学科

未提出

子供芸術学科

未提出